

# 用地取得、建設、施設管理、解体、売却…… 「工場の一生」を見守るIoTとAIを駆使して 匠のノウハウ伝承 次世代ものづくりへ

**施設運営の一括受託が強み**  
**全国160拠点に1600人常駐**  
その取り組みはアシリティーズ業界  
の先駆けであり、工場施設運営の一括



Total IFM(Integrated Facility Management)で、施設管理、建設、環境、不動産、保険の5つの事業の専門家集団がシナジーを発揮し、工場施設の経営効率を高める。

1966年創業のNECファシリティーズは元々、NECグループの工場施設の運営・管理を手掛けていた。2010年代に入ると、社内に蓄積されたこれらの「経験値」をNECグループ以外の工場にも提供するようになつた。

当社は長年の施設管理事業を通じて多様な資格、知見、ノウハウを兼ね備えた多くの専門家を抱えています。それが当社の強みです」と松下社長。

アフターコロナや今後、加速する脱炭素化・高度化への対応は待ったなし。  
工場でのカーボンニュートラルの実現に動きをにらめば、国内の生産工場の効率化・高度化への対応は待ったなし。

NECファシリティーズが提供する高度なエネルギー原単位管理サービスが役立つ。DX(デジタルトランスフォーメーション)へのニーズにもNECグループが持つ技術で応えていく。現在のサービス提供先は半導体電子部品の工場が中心だが、今後はデータセンター・医薬品などの他の業種にも広げていく。「日本の製造業を強くしたい」。松下社長の願いである。

**Profile**  
【まつした ゆたか】1960年大分県生まれ。広島大学総合学部総合科学科を卒業し、1983年に日本電気株式会社に入社。2014年NECの製造業担当の執行役員となり「NECものづくり共創プログラム」「NEC DX Factory」などを主導した。2019年NECファシリティーズ代表取締役執行役員社長に就任。

**NECファシリティーズ株式会社**  
本社 東京都港区芝二丁目22番12号(NEC第二別館)  
電話 03-3455-1111(代表)  
URL <https://www.necf.jp/>  
代表者 代表取締役執行役員社長 松下 裕  
創業 1966年  
従業員数 1657名  
事業内容 不動産の管理、売買、賃貸借、仲介、分譲、保守および修理(ほか)

## 変革期に入った 国内のものづくり現場

「国内のものづくり現場は変革の時を迎えてます」。半導体など電子部品の生産現場に精通した松下裕社長はこう語る。

1000億円超の投資規模の半導体工場の建設がここ数年増えているという。

2000年以降、中国や東南アジアへの工場移転が進んだが、最近は現地の人員費アップなどもあり、国内への回帰が進む。

コロナ禍で半導体など電子部品が不足している現状から「経済安全保障」という国家戦略も浮上し、国内工場の建設機運は高まっている。

だが、国内の半導体業界は「失われた20年」を経験した。大型の工場建設はほとんどなく、工場の安定稼働に必要な電気・空調・水処理等の各種設備を維持・管理できる人材は減り続けている。「工場を新設しようとしても、施設管理者をすぐに集めたり、育てたりできません」

当社は長年の施設管理事業を通じて多様な資格、知見、ノウハウを兼ね備えた多くの専門家を抱えています。それが当社の強みです」と松下社長。

受託は同社の強い競争力だ。現在、こうした受託サービス提供先は大手半導体メーカーの工場など160拠点に及び、1600人の技術者が常駐している。

今では同社が提供するサービスは、「Total IFM (Integrated Facility Management)」と呼ばれ、施設管理、建設、環境、不動産、保険という5つの事業のシナジーだ。いわば盤の二つである工場施設を支える役割を担っている。

松下社長は「お客様が施設運営を当社に任せ、事業の中核に集中できるようになることが私たちのミッションです」と話す。

今後も専門家集団として顧客に貢献するためには熟練技術者の確保と育成が必要だ。工場施設の運営・管理に現在、携わっている熟練技術者は50歳代半ばが多い。

今のところは熟練技術者が施設運営の現場で活躍しているが、10年後には大半が退職し、人材不足が予想されるのだ。

## IoTとAIの活用で克服へ 熟練技術者の高齢化問題

若手社員をNECグループの事業場に配属し、十分な経験を積んでから受託先へ派遣したり、資格支援制度を設けて資格取得へのモチベーションを維持・向上させるなど、人材の育成に力を入れている。

昨年4月に発表したIoT・AI活用による施設管理のコンセプト「NEC DX Facility Management Service」は、IoTやAIを活用した施設管

理業務の最適化や異常予兆検知・保全などの4つの機能を統合して提供するサービスである。例えば熟練技術者の知見をAIに学ばせ、各種設備に付けられた多くのセンサーから得られる情報をAIが分析し、設備の異常予兆を素早く知らせる。

NECグループが抱えるIoT、AIの技術をフル活用して、熟練技術者の高齢化問題に対処する考えだ。

松下社長は「お客様が施設運営の現場で活躍しているが、10年後には大半が退職し、人材不足が予想されるのだ。

## アフターコロナ、脱炭素社会へ 日本の製造業を強く

アフターコロナや今後、加速する脱炭素化・高度化への対応は待ったなし。

工場でのカーボンニュートラルの実現に動きをにらめば、国内の生産工場の効率化・高度化への対応は待ったなし。

NECファシリティーズが提供する高度なエネルギー原単位管理サービスが役立つ。DX(デジタルトランスフォーメーション)へのニーズにもNECグループが持つ技術で応えていく。現在のサービス提供先は半導体電子部品の工場が中心だが、

今後はデータセンター・医薬品などの他の業種にも広げていく。「日本の製造業を強くしたい」。松下社長の願いである。



# 松下 裕 matsushita yutaka

工場施設運営の一括アウトソーシングが  
可能な専門家集団

「Made in Japan」を強くする!

国内のものづくり現場の重要性が再認識されている。  
コロナ禍で半導体などの電子部品は不足し、脱炭素の動きが急展開する。  
国内工場の重要性は増し、さらなる効率化が求められている。  
工場運営はまさに経営戦略の大きな柱になった。  
工場施設をワンストップで運営・管理する経験・スキルをもつ専門家集団、  
NECファシリティーズの松下裕社長に今後の戦略を聞いた。